

池袋本町「ふれあい祭り」

昨年10月28、29日、池袋本町ふれあいまつりが、防災ひろばで開催されました。

ふれあい祭りは、昨年までの「池袋本町商人祭り」の名称を変えて、第5回として継承開催されました。商店街のみなさんや、学校、地域のみなさん、子どもも、お年寄りも一緒になって、にぎやかで元気な2日間でした。

新しいまちづくりの会では、みんなで協力して、ブースを出展しました。

ブースは、誰もがわかりやすいように工夫をし、写真と図、ニュースの現物と、消防署から提供された防災グッズなどを展示し、持ち帰り用に「いざという時」のためのリストを用意しました。

そのなかで、平成17年からはじまった会の流れと、過去9年間の豊島区防災生活圏促進事業(池袋本町防災まちづくりの会と防災ひろばの会)の活動を紹介しました。

また、会場となっている防災ひろばの四季折々

の出来事や、樹木や草花の説明なども写真で展示し、看板は「セイタカアワダチノウ」を使って制作しました。

会のテントを訪れ会員の説明に耳を傾けた豊島区長や区議会議長は、「会の活動や、防災ひろばの様子が良くわかる展示です」「このひろばには、沢山の樹木や、珍しい草花があるのですね」と感心される一幕もありました。

また、テントのなかでは幅広い年齢層166名の方々にアンケートに答えていただき、会場の防災ひろばにある植物を使ってのブーケのプレゼントに大喜びされました。(広報部)



まち

池袋本町 まちづくりニュース

Ikebukuro Hancyo
Machizukuri News
no.42
2007年3月16日発行

発行：池袋本町 新いまちづくりの会
豊島区 環境整備課
問い合わせ先：
TEL 03-3981-2612
FAX 03-5950-0803
編集協力：(株)まちづくり工房

池袋本町地区で居住環境総合整備事業によるまちづくりがスタートして2年。会では、住み良い環境のまちをつくり、災害に強いまちにするために話し合いを続けています。

検討されたまちづくりの方針

今年度の活動は、その第一段階として、前半に地区の現状の課題などを整理し、後半は、これらの課題を解決しながらまちづくりを進めていくための方針を検討しました。(下表)

また、まちづくりを進める手法の一つとして、平成19年4月から「建替促進助成制度」がはじまります。この制度を活用し、まちづくりをすすめていくためには、住民どうしの十分な話し合いと合意が大切です。制度の概要をあわせて紹介します。(②③頁参照)



▲まち歩きの様子

■ 池袋本町 まちづくりの方針

① 道路	『安全・安心な生活道路づくり』 ・幅員6m防災道路(1~3号線)の整備 ・狭い道路の整備・改善 ※1 ・民有地の歩行空間の確保	・歩道整備 ※2 ・踏切の改善 ・防犯灯・街路灯の整備改善
② 建物・土地利用	『住み良いまちのためのルール等に基づく宅地の適正化』 ・敷地細分化の防止 ・建物や街並みの改善・規制 ・宅地・建物の共同化	・危険工作物の改善・規制 ・民有地内環境改善
③ 公園・広場・みどり	『みどり豊かで安全な広場づくり』 ・公園や防災ひろばの整備 ※3	・史蹟等の保全
④ 公益的施設	『民有地の公益的な利活用』 ・民有地の公益的利活用	・民有地内防災施設の活用
⑤ ひと・組織等(ソフトについて)	『まちを育てる人づくり』 ・ゴミ捨て等マナーの向上 ・道路利用マナーの向上 ・地域清掃・美化の推進	・みどりの保全・維持管理の仕組みづくり ・防災・防犯の体制づくり ・地域コミュニティの形成

※1 狭い道路の拡幅、隅切り確保、行き止まり道路解消、交差点改善等
※2 国道254号線と本町中央通りの結節部等 ※3 公園、防災関連施設の整備等

守る

子どもを守る⑤ 豊島区立池袋中学校PTA 会長・副会長に聞く

豊島区立池袋中学校 PTA 会長の、武石雅彦さんと、副会長のお一人根岸幸子さんに PTAのお立場で日ごろ感じていらっしゃる事や、活動についてお話を伺いました。

子どもを守り、育てるなかで、一番大切なことは、学校、家庭、地域の3本の柱が力をあわせることだとおっしゃいます。どの1つも欠かせないと強調していらしたのが印象的でした。

学校や地域で見せる顔と、家庭で見せる顔の違いに気づいて欲しいともおっしゃいます。

そのためには、学校の行事や地域の行事への積極的な参加の呼びかけをし、PTAの役割を小分けにして、さまざまな事柄にいろいろな人がほんの少しでもかわかり、役割を分担していく試みをしていると話してくださいました。

親が見たことの無い顔、先生が見たことの無い顔、地域の人が見たことの無い顔に出会った

時に、子どもの心の動きにふれ、子どもの素顔に触れることが出来るのかもしれないと思いました。

昨年11月7日文部科学大臣宛に届いた「いじめ自殺予告」の手紙事件以来、豊島区教育委員会は、「いじめから子どもたちの大切な命を守る」という文書を各関係機関に送り、小中学校での見守りを強め、アンケートの実施や悩み相談のようなはがきを発信しているそうです。

私たち地域の大人が、子どもたちの行事に積極的に参加し、交流することは、いじめを受けやすい子や、いじめに参加している子の心に、少しでも触れる機会になることでしょう。

(取材、まとめ：広報部)



池袋中学校 PTA
会長 武石雅彦さん(左)
副会長 根岸幸子さん(右)

つれづれに一言
久しぶりに池袋中学校の同期の名簿を引っ張り出してみました。私は戦後のベビーブームの生まれ。いわゆる剛現の世代です。私が入学した年、池中では大変な事が起きました。私を第17期生七三一名は、既存の教室にあふれず、生徒が入りきれなくなっていました。急遽、校庭を分断してカマボコ兵舎型のプレハブ校舎が建ちました。出来上がった建物は、夏暑く、冬は寒いというとても校舎とはいいがたく、まるで収容所のような酷いものでした。まちづくりに参加して、あらためて池袋本町のまちを見直す時、いつの間にか原っぱが消え、お風呂屋さんの数が減り、大きなお屋敷も無くなりました。そして、しゃれた建売住宅群があらここに出現し、以前、よく氾濫していた谷堀川は遊歩道に姿を変え、池袋本町のまちは、休みなく様変わりを経ていきます。私が学び育ったこのまちで、娘が生まれ育ち、今、孫が生まれ、育ち始めました。この孫にとっても安全、安心、快適に学び、育つ場であり、住み続けられるまちであって欲しいとねがいつつ……。(久保孝子)

さまざまな「まちの情報」を教えてください！
「ためになる」「おもしろい」「埋もれている」など、まちの話題は事務局まで！